

# 介護職員初任者研修 シラバス

科目	講義形式	時間	学習内容
1. 職務の理解	講義	6H	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。
2. 介護における尊厳の保持・自立支援	講義 通信	1.5H 7.5H	介護職が利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動等を理解している。 介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説出来る。 虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる
3. 介護の基本	講義 通信	3H 3H	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうちじゅうようなものを理解している。 介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。 介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。 介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。 生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。 介護職におよびやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。
4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	講義 通信	1.5H 7.5H	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。 生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。

			<p>介護保険制度や障害者自立支援制度の理念、介護保険制度の財源厚生と保険料負担の大枠について列挙出来る。</p> <p>例:税が財源の半分であること、利用者負担割合</p> <p>ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。</p> <p>高齢者障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。</p> <p>医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為などについて列挙できる。</p>
5. 介護におけるコミュニケーション技術	講義 通信	3H 3H	<p>高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションをとることが専門職に求められることを認識し、初任者として最低限のとり(とるべきでない)行動例を理解している。</p> <p>共感、需要、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。</p> <p>家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。</p> <p>言語、四角、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。</p> <p>記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。</p>
6. 老化の理解	講義 通信	3H 3H	<p>加齢。老化に伴う変化や疾病について、生理的な側面から理解することとの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。</p> <p>加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。</p> <p>高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。</p>
7. 認知症の理解	講義 通信	3H 3H	<p>介護において認知症を理解することの必要性に基づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解している。</p> <p>認知症ケアの離縁や利用者中心というケアの考え方について概説できる。</p> <p>健康な高齢者の「物忘れ」と、記憶障害のちがいについて列挙できる。</p>

			<p>認知症「の中核症状と行動・心理症状(BPSD)等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。</p> <p>認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則につちえ列挙できる。また、同様に、若年生認知症の特徴について概説できる。</p> <p>認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。</p> <p>例:生活習慣や生活様式の継続、なじみの人間関係やなじみの空間、プライバシーの確保と団らんの場の確保等、地域を含めて生活環境とすること。</p> <p>認知症の利用者とのコミュニケーション(言語、非言語)の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方(良い関わり方、悪い関わり方)を概説できる。</p> <p>家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて列挙できる。</p>
8. 障害の理解	講義 通信	2H 1H	<p>障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解している。</p> <p>障害の概念とICFについて概説でき、各障害の内容・特徴応じた社会支援の考え方について列挙できる。</p> <p>障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。</p>
9. こころとからだのしくみと生活支援技術	講義 通信	63H 12H	<p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部又は全介助等の介護が実践できる。</p> <p>尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p> <p>主だった状態像の高齢者の状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。</p>
10. 振り返り	講義	4H	<p>研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、終業後も継続して習・研鑽の形成、学習課題の認識をはかる。</p>